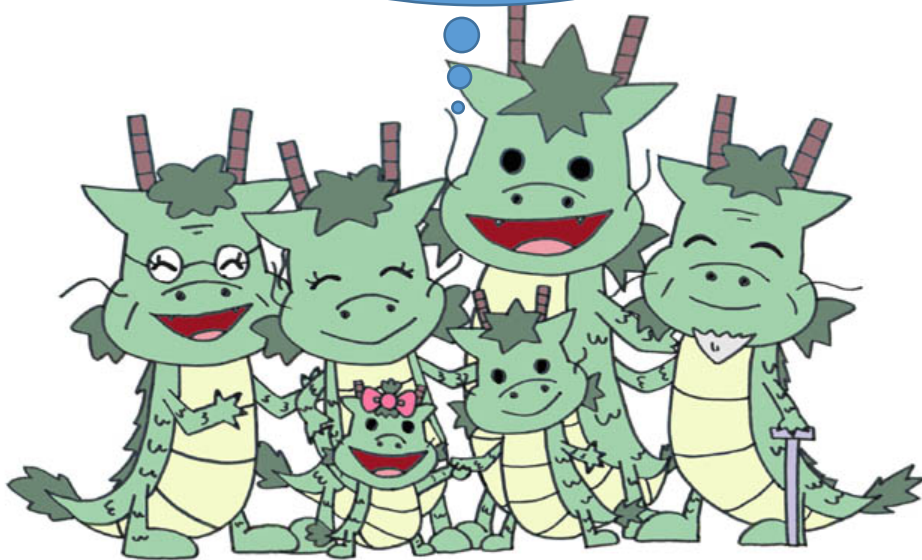


# 2021年度 竜王町 人権啓発セミナー

「当たり前」を問い直そう



## 日時

10月13日(水)～11月29日(月) 全5回講座  
19時30分～21時(受付19時より)

## 会場

竜王町公民館 ホール

※新型コロナウイルス感染拡大により延期または中止することがあります。

★★★ 講座の内容 ★★★

第1回 10月13日(水) 19:30~



部落問題『人権文化あふれるまちづくり』

土田 光子 さん (大阪多様性教育ネットワーク共同代表)

土田光子さんは、35年間務めてきた中学校教諭を退職され、現在は人権教育・啓発活動に尽力されています。土田さんのパワーの源は、子どもたちと共に取り組んで来た同和教育の実践です。大原則は「子どもたちが教室で見せる姿の背景には、一人ひとりが抱える暮らしがある」ということ。子どもたちとの学びの姿を交えながら、部落問題の残された課題とその解決への展望を語っていただきます。

第2回 11月11日(木) 19:30~



性の多様性と人権『問題の所在はどこか L/G/B/Tsの子どもたちが問いかけるもの』

土肥 いつき さん (トランスジェンダー生徒交流会世話人)

土肥いつきさんは京都府公立高校の現役教諭です。人権教育に熱心に取り組んでこれ、近年は多様な性を生きる高校生たちが集まる会の世話人として活動されています。竜王町では昨年度から「性の多様性と人権」をテーマにした啓発をスタートさせました。多様な性を生きる子どもたちの声から、社会のあり方を問い直してみたいと思います。

第3回 11月19日(金) 19:30~ 《若い世代へのアピール講座》



子どもの人権『だれもが幸せに暮らすために』

立岡 勇一 さん (青少年支援ハウス「輝」)

「輝」はひきこもりの青少年を支援する施設です。ひきこもりは誰もがなる可能性を持っていると言われています。「輝」の所長・立岡勇一さんには、多くのひきこもり経験者と関わってこられた事例を通して、大人が子どもたちにどう寄りそったらいいのか語っていただきます。そこには社会に渦巻く差別や偏見がなくなればという願いが強く込められています。お話の合間にすてきなギター弾き語りも披露していただきます。

第4回 11月26日(金) 19:30~



患者の人権『ハンセン病問題とは何か? ハンセン病強制隔離政策が奪った人権』

加藤 めぐみ さん (ハンセン病回復者支援センター)

ハンセン病関西退所者原告団いちょうの会事務局長 (DVD出演)

日本ではハンセン病強制隔離政策という間違った政策が89年間も行われ、人権侵害が続いてきました。人々は「ハンセン病は恐ろしい伝染病だ。撲滅しよう。」という政策スローガンのもと、ハンセン病にかかった人やその家族を排除してきました。コロナ禍の今、ハンセン病問題で犯した過ちを繰り返さないことが求められています。どうすればいいか、加藤めぐみさんとハンセン病療養所退所者の方からのお話から考えます。

第5回 11月29日(月) 19:30~



障がい者の人権

『精神疾患を知ろう~体験談を聴いてつながろう~』

メンタルピアサポート協会「滋賀ぼちぼち」のみなさん

近年増加傾向の精神疾患は、社会不適合やひきこもりなどの原因にもなっています。一口に精神疾患といってもさまざまな症状や病名があり、正しい理解は進んでいません。「滋賀ぼちぼち」は精神疾患当事者の会です。体験や思いを語る活動を通して、社会啓発と同時に自身の回復もめざされています。竜王町でも精神疾患で悩んでいる人は少なからずいます。正しい理解と支援のあり方を学びます。